

令和 7 年度下水中の水質測定業務委託仕様書

(趣旨)

- 1 この仕様書は、発注者が委託する令和 7 年度下水中の水質測定業務について、必要な事項を定めるものとする。

(契約期間)

- 2 業務の契約期間は、契約日から令和 8 年 3 月 23 日とする。

(業務内容)

- 3 業務内容は、試料容器の準備（発注者が採取した日や採取先を試料容器に明示するためのラベル等の準備を含む）、発注者が特定事業場等から採取した試料の運搬、測定及びその報告とする。

(測定項目、測定回数及び実施予定日)

- 4 測定項目及び測定回数は、別表第 1 のとおりとする。実施予定日は、別表第 2 のとおりとする。
なお、測定項目、測定回数及び実施予定日は、社会情勢等により変更する可能性があるものとする。

(指示事項)

- 5 発注者は各回の業務実施にあたり、水質測定業務委託指示書（様式第 1）、水質測定項目内訳書（様式第 2）により、以下の項目について、受注者に指示するものとする。

- (1) 業務内容
- (2) 試料受け渡し日
- (3) 報告書提出期限

(試料の採取量及び試料容器)

- 6 試料の採取量はクロスチェックができる量とし、受注者はこの採取量に必要な試料容器を用意する。

(試料の受け渡し)

- 7 試料の受け渡し場所は、相模原市役所とする。

(測定方法)

- 8 測定方法及び報告下限値は、別表第 3 のとおりとする。なお、よう素消費量は受渡日当日に測定を行うこととする。

アンモニア性窒素等とは、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素をいう。

(報告書)

- 9 受注者は各回の業務実施にあたり、以下の提出物を報告書として発注者に提出する。

- (1) 水質測定結果について（様式第 3-1）
- (2) 水質測定実施延べ項目数（様式第 3-2）
- (3) 計量証明書
- (4) 電子ファイル

電子ファイルの形式については、発注者受注者協議して決定するものとする。

(試料の保存)

1 0 試料は、原則として受け渡し日から2か月間は保存するものとし、発注者は必要に応じて、クロスチェック用試料の提出を求めることができるものとする。

(その他)

1 1 詳細は、発注者の指示に従うこと。

令和7年度下水中の水質測定業務委託

測 定 項 目	測定回数 N (回)
アンモニア性窒素等	119
pH	329
BOD	326
SS	326
ノルマルヘキサン抽出物質	266
油脂判定試験	106
よう素消費量	307
カドミウム	121
シアン	130
有機りん	71
鉛	147
6価クロム	91
ひ素	138
総水銀	122
アルキル水銀	60
ポリ塩化ビフェニル	78
トリクロロエチレン	82
テトラクロロエチレン	75
ジクロロメタン	109
四塩化炭素	108
1,2-ジクロロエタン	79
1,1-ジクロロエチレン	75
シス-1,2-ジクロロエチレン	75
1,1,1-トリクロロエタン	75
1,1,2-トリクロロエタン	75
1,3-ジクロロプロペン	65
チウラム	65
シマジン	65
チオベンカルブ	65
ベンゼン	104
セレン	90
ほう素	117
ふっ素	179
1,4-ジオキサン	41
フェノール類	126
銅	189
亜鉛	194
鉄(溶解性)	195
マンガン(溶解性)	154
クロム	146
ニッケル	179
COD	295
大腸菌群数	19
大腸菌数	3
外観	329
臭気	329
合 計	6,439

測定回数は、予定回数である。

令和7年度下水中の水質測定業務 採水実施予定日

5月	①	5/22	木
	②	5/23	金
	③	5/26	月
	④	5/27	火
	⑤	5/28	水
	⑥	5/29	木
	⑦	—	—
	⑧	—	—
	予備	5/30	金
	予備	—	—
6月	①	6/9	月
	②	6/10	火
	③	6/11	水
	④	6/12	木
	⑤	6/13	金
	⑥	6/16	月
	⑦	6/17	火
	⑧	6/18	水
	予備	6/19	木
	予備	6/20	金
7月	①	7/7	月
	②	7/8	火
	③	7/9	水
	④	7/10	木
	⑤	7/11	金
	⑥	7/14	月
	⑦	7/15	火
	⑧	7/16	水
	予備	7/17	木
	予備	7/18	金
8月	①	8/1	金
	②	8/4	月
	③	8/5	火
	④	8/6	水
	⑤	8/7	木
	⑥	8/8	金
	⑦	8/19	火
	⑧	8/20	水
	予備	8/21	木
	予備	8/22	金
9月	①	9/1	月
	②	9/2	火
	③	9/3	水
	④	9/4	木
	⑤	9/5	金
	⑥	9/8	月
	⑦	9/9	火
	⑧	9/10	水
	予備	9/11	木
	予備	9/12	金

10月	①	10/1	水
	②	10/2	木
	③	10/3	金
	④	10/6	月
	⑤	10/7	火
	⑥	10/8	水
	⑦	10/9	木
	⑧	10/10	金
	予備	10/14	火
	予備	10/15	水
11月	①	11/4	火
	②	11/5	水
	③	11/6	木
	④	11/7	金
	⑤	11/10	月
	⑥	11/11	火
	⑦	11/12	水
	⑧	11/13	木
	予備	11/14	金
	予備	11/17	月
12月	①	12/1	月
	②	12/2	火
	③	12/3	水
	④	12/4	木
	⑤	12/5	金
	⑥	12/8	月
	⑦	12/9	火
	⑧	12/10	水
	予備	12/11	木
	予備	12/12	金
1月	①	1/13	火
	②	1/14	水
	③	1/15	木
	④	1/16	金
	⑤	1/19	月
	⑥	1/20	火
	⑦	1/21	水
	⑧	1/22	木
	予備	1/23	金
	予備	1/26	月
2月	①	2/2	月
	②	2/3	火
	③	2/4	水
	④	2/5	木
	⑤	2/6	金
	⑥	2/9	月
	⑦	2/10	火
	⑧	2/12	木
	予備	2/13	金
	予備	2/16	月

令和7年度 測定方法及び報告下限値

測定項目	報告下限値	測定方法
アンモニア性窒素等	0.1	下水の水質の検定方法等に関する省令に規定する検定の方法
pH	小数点第1位	〃
BOD	5	〃
SS	5	〃
ノルマルヘキサン抽出物質	0.5	〃
油脂判定	0.5	JIS K 0102-1 附属書D(参考)
よう素消費量	1	下水の水質の検定方法等に関する省令に規定する検定の方法
カドミウム	0.005	〃
シアン	0.05	〃
有機りん	0.01	〃
鉛	0.01	〃
6価クロム	0.02	〃
ひ素	0.005	〃
総水銀	0.0005	〃
アルキル水銀	0.0005	〃
ポリ塩化ビフェニル	0.0005	〃
トリクロロエチレン	0.0005	〃
テトラクロロエチレン	0.0005	〃
ジクロロメタン	0.0005	〃
四塩化炭素	0.0005	〃
1,2-ジクロロエタン	0.0005	〃
1,1-ジクロロエチレン	0.0005	〃
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.0005	〃
1,1,1-トリクロロエタン	0.0005	〃
1,1,2-トリクロロエタン	0.0005	〃
1,3-ジクロロプロペン	0.0005	〃
チウラム	0.006	〃
シマジン	0.003	〃
チオベンカルブ	0.02	〃
ベンゼン	0.0005	〃
セレン	0.002	〃
ほう素	0.1	〃
ふっ素	0.1	〃
1,4-ジオキサン	0.005	〃
フェノール類	0.005	〃
銅	0.01	〃
亜鉛	0.01	〃
鉄(溶解性)	0.05	〃
マンガン(溶解性)	0.01	〃
クロム	0.05	〃
ニッケル	0.05	JIS K 0102-3の18
COD	1	JIS K 0102-1の17
大腸菌群数	0	下水の水質の検定方法等に関する省令及び下水の処理開始の公示事項等に関する省令の一部を改正する省令（令和6年国土交通省令・環境省令第1号）による改正前の下水の水質の検定方法等に関する省令に規定する検定の方法
大腸菌数	10	下水の水質の検定方法等に関する省令に規定する検定の方法
外観	――	JIS K 0102-1の7
臭気	――	JIS K 0102-1の11

単位は、pH、大腸菌群数及び大腸菌数を除き「mg/l」

大腸菌群数の単位は、「個/ml」

大腸菌数の単位は、「CFU/ml」

令和 7 年度下水中の水質測定業務委託指示書

年 月 日

(受注者) 様

相模原市長 (市 長 名)
(公印省略)

- 1 業務内容 別紙「水質測定項目内訳書」のとおり。
ただし、内訳書の※1、※2 については、次の条件のときに分析を実施すること。
- ※1 ノルマルヘキサン抽出物質が 5mg/l を超えたとき
※2 総水銀が報告下限値を超えたとき
- 2 試料受け渡し日 年 月 日
- 3 報告書提出期限 年 月 日

都市建設局 土木部
下水道保全課 総務・水質班
電話 042-707-1908(直通)

水質測定項目内訳書

年 月 日 (第 回)

[illegible]

令和 年 月 日

相模原市長 宛

(受注者)

水質測定結果について(報告)

このことについて、令和 年 月 日に受け渡された試料の水質測定を実施したので、別紙のとおり報告します。

水質測定結果報告別紙(令和 年 月分)

[illegible]

※詳細は、別添「計量証明書」のとおり。

(1) 委託測定方													契約単価 (消費税抜き)	金額	
測定項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計				
アンモニア性窒素等															
pH															
BOD															
SS															
ノルマルヘキサン抽出物質															
油脂判定試験															
よう素消費量															
カドミウム															
シアン															
有機りん															
鉛															
6価クロム															
ひ素															
総水銀															
アルキル水銀															
ポリ塩化ビフェニル															
トリクロロエチレン															
テトラクロロエチレン															
ジクロロメタン															
四塩化炭素															
1,2-ジクロロエタン															
1,1-ジクロロエチレン															
シス-1,2-ジクロロエチレン															
1,1,1-トリクロロエタン															
1,1,2-トリクロロエタン															
1,3-ジクロロプロペン															
チウラム															
シマジン															
チオベンカルブ															
ベンゼン															
セレン															
ほう素															
ふっ素															
1,4-ジオキサン															
フェノール類															
銅															
亜鉛															
鉄(溶解性)															
マンガン(溶解性)															
クロム															
ニッケル															
COD															
大腸菌群数															
大腸菌数															
外観															
臭気															
合 計 (1)														税込み合計	

契約金額

実施率

[illegible]

相模原市環境方針

本市は、「相模原市環境基本条例」の基本理念に則り、望ましい環境像「人と自然が共生するまち～市民と築く、地域循環共生都市さがみはら～」を実現するため、事務事業の実施に当たり、以下のとおり、取組目標を設定し、継続的改善を推進します。

- 1 「相模原市環境基本計画」に基づき、環境関連施策を推進し、事務事業の実施に伴う環境負荷の低減を図ります。
- 2 地球温暖化対策や循環型社会の形成などを推進するため、再生可能エネルギー等利用設備の導入、省エネルギー機器の導入、公用車適正利用の推進、ごみの減量化・資源化の推進、資源・エネルギーの有効活用に取り組めます。

令和2年4月1日

相模原市長

【相模原市環境基本条例 基本理念】

- 1 環境の保全及び創造は、市民が健康で安全かつ文化的な生活を営むことのできる自然と調和の取れた豊かな環境を確保し、及び向上させ、並びに将来の世代へ継承していくことを目的として行うものとする。
- 2 環境の保全及び創造は、環境に関する資源の有限性を認識するとともに、その適正な管理及び利用を図り、もって環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会を構築することを目的として行うものとする。
- 3 環境の保全及び創造は、市、事業者及び市民相互の協力の下に行うものとする。
- 4 地球環境保全は、人類共通の課題であるとともに市民の健康で安全かつ文化的な生活を将来にわたって確保する上で極めて重要であることから、積極的に推進するものとする。